

第3部 位置と財産

1. 沿革

明治9年(1876年) 石狩国札幌区東創成通り(現在の札幌市中央区南2条東1丁目)において、札幌農学校教師ウィリアム・ホイラーにより気象観測を開始。

明治11年(1878年) 石狩国札幌区東創成通り(現在の札幌市中央区北3条東1丁目)にあった、開拓使民事局地理課内に観測地点を移転。

明治23年(1890年) 現在の札幌市北区北8条西9丁目に移転。

昭和14年(1939年) 現在の敷地である札幌市中央区北2条西18丁目に移転。

2. 庁舎

札幌管区気象台の庁舎については、昭和38年(1963年)の火災により一部焼失した後、建て替えが行われ、昭和40年(1965年)に現在の鉄筋3階建ての本庁舎が完成した。

平成6年度(1994年度)には、庁舎の狭隘解消のため北東側に別棟で会議室が新築され、その後、庁舎内の配置換えにより図書資料室として使用されている。

平成13年度(2001年度)には、火山観測体制の強化に伴う増員によって庁舎が手狭となったため、本庁舎南側に第二庁舎が新築された。

平成17年度(2005年度)には、北海道開発局営繕部による総合耐震診断の結果、「地震の震動および衝撃に対して倒壊又は崩落する危険性が高い」と診断された。これを受け、平成18年度(2006年度)に鉄骨等で外壁を補強するなどの耐震工事が行われ、現在の庁舎の姿となった。

なお、札幌管区気象台の歴史を振り返る上で職員の福利厚生の変遷についても記すと、かつて庁舎内には食堂があり、ラーメンや蕎麦などの麺類のほか、日替わり定食なども提供され、職員の活力源となっていた。この食堂は平成28年度(2016年度)に廃止され、その後、男子更衣室へと改修された。

令和8年度(2026年度)現在、札幌市中央区北2条西19丁目に建設される「札幌第4地方合同庁舎(2期)」に移転するための準備を進めている段階である。同合同庁舎は令和12年度(2030年度)に完成予定であり、札幌管区気象台の入居は令和13年度(2031年度)を予定している。移転後は、現在の敷地内にある庁舎を含めた建築物等はすべて解体する予定のため、現在の庁舎の姿を留めるのも、残りわずかな期間となっている。



札幌管区気象台庁舎全景

3. 構内宿舎

かつて札幌管区気象台の敷地内には、構内宿舎が設けられていた。昭和14年（1939年）の移転時から宿舎は存在していたが、昭和44年度（1969年度）に老朽化のため取り壊され、昭和46年度（1971年度）に地上3階建て全12戸の宿舎が新築された。

平成24年度（2012年度）には、その構内宿舎についても老朽化が著しくなったため取り壊された。

構内宿舎の跡地は、現在は「北1条おてんき公園」として生まれ変わり、地域の子供たちの憩いの場となっている。



札幌管区気象台構内宿舎



北1条おてんき公園

4. 気象レーダー塔

昭和37年(1962年)には、敷地北西側に鉄筋コンクリート3階建てのレーダー塔を新築し、翌年6月から運用を開始した。その後、周辺の都市開発の影響からより高いレーダー塔が必要となり、昭和52年度(1977年度)に庁舎西側に高さ約50mのレーダー塔が新築された。しかし、周辺の建築物の高層化により探知範囲が限られることなどから、平成7年度(1995年度)に小樽市の毛無山へ気象レーダーを移設した。移設後も同レーダー塔は「旧レーダー塔」として残され、平成12年度(2000年度)には頂上に高層気象観測のための自動追跡型方向探知機を設置し、運用を開始した。

この旧レーダー塔も老朽化により、令和2年度(2020年度)に解体工事が行われ、その歴史に幕を閉じた。

(檜山 大)



気象レーダー塔